

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (1)

(00240)

事務事業名称	青少年育成	款	04	項	02	目	01	事業	005	整理番号	232	
現担当課名	児童青少年課	係名	青少年係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	247		
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実						予算事業区分	既定事業				
事業開始	昭和29年度											
令和 3年度担当課名	児童青少年課						事業評価区分	一般				

令和 3年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象	区内在住・在学・在勤の25歳未満の青少年、地域の青少年健全育成団体	根拠法令等	(1)	杉並区青少年育成委員会補助金交付要綱
			(2)	杉並区青少年善行表彰要綱
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	区内17団体ある青少年育成委員会などの地域の青少年健全育成の活動を助成し、これらの団体が行う事業活動を通して子どもたちの健全育成を推進する。善い行いをした青少年及び団体を表彰し、善行の気運醸成を図る。	活動指標	指標名 (1)	青少年育成委員会の総事業数 (共催事業も含む)
			指標説明	青少年善行表彰件数
			指標名 (2)	個人表彰人数 + 団体表彰団体数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	青少年健全育成団体に対し、補助金または事業共催分担金を支出する。 青少年によるボランティア活動や地域協力などの善行に対し、表彰を行う。 すぎなみ舞祭を開催する。	成果指標	指標名 (1)	青少年育成委員会実施事業参加者数 (共催事業も含む)
			指標説明	共催事業参加者数
			指標名 (2)	すぎなみ舞祭 杉並スカウト連絡会との共催事業参加者数
			指標説明	

指標、総事業費・コスト把握 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和元年度	令和 2年度		令和 3年度		令和 4年度	令和 3年度	令和 3年度
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)
活動指標 (1)	1 件	310	400	32	400	65	400	16.3	41.9
活動指標 (2)	2 件	288	200	87	200	39	200	19.5	
成果指標 (1)	3 人	70,100	100,000	6,943	100,000	24,661	100,000	24.7	
成果指標 (2)	4 人	1,678	1,650	196	1,650	869	1,650	52.7	
事業費	5 千円	20,224	19,008	6,482	20,081	8,419	19,863	特記事項	
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	新型コロナウイルスの影響を受け、育成委員会の実施する事業の多くが中止や規模を縮小しての実施となり、育成委員会補助金の交付額は予算額の約75%でした。 また、すぎなみ舞祭が中止となったため、分担金の支出もありませんでした。	
(内) 委託費	7 千円	86	135	50	105	22	128		
職員数	8 人	3.47	2.20	2.69	2.00	3.07	2.40		
上記以外の職員	9 人	2.35	2.10	1.90	1.50	1.40	1.50		
人件費	10 千円	30,251	19,180	22,873	17,006	25,613	20,023		
上記以外の職員	11 千円	7,238	6,468	6,893	5,442	5,145	5,513		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	57,713	44,656	36,248	42,529	39,177	45,399		
単位当たりコスト ((12-6) ÷ 1)	13 円	186,171	111,640	1,132,750	106,323	602,723	113,498		
財源	受益者負担分	14 千円	0	0	0	0	0		
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	0	0		
	都からの補助金等	16 千円	0	0	0	0	0		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	0	0	0	0	0		
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	57,713	44,656	36,248	42,529	39,177	45,399		
受益者負担比率 (14 ÷ 12)	20 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (2)

令和 3年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 232

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	青少年育成委員会補助金	17	件	7,603
	スカウト連絡会との共催事業	8	回	356
	青少年善行表彰の実施	1	回	237
	その他 (青少年育成委員会に係る消耗品等)			223
事業実績	<p>令和3年度も新型コロナウイルスの影響は大きく、コロナ禍前と比較すると事業の実施件数や参加者数は大きく減少したままですが、昨年度と比較すると共に増加しています。青少年育成委員会の行う事業は65事業が行われ、24,661名が参加しました。また、すぎなみ舞祭は緊急事態宣言の発出により中止しましたが、スカウト連絡会との共催事業は8回実施することができ、869名が参加しました。同様に善行表彰も新型コロナウイルスの影響は続き、コロナ禍前に推薦対象となっていた事業の多くが開催されず、個人と団体を併せて39件、273人の表彰に留まりました。</p>			

令和 3年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情など)	<p>【 青少年育成委員会委員数 / 事業参加者数 】 R1 : 965名 / 70,100名 R2 : 925名 / 6,943名 R3 : 885名 / 24,661名 青少年育成委員会の主催事業については様々な体験活動や交流活動を子ども達に提供することで、地域における青少年の健全育成にとって不可欠な位置づけとなっています。</p> <p>【 青少年善行表彰 表彰延べ数 (個人 / 団体) 】 R1 : 243名 / 45団体 R2 : 82名 / 5団体 R3 : 26名 / 13団体 青少年善行表彰は、表彰を受けることで青少年が自ら進んで善行に取り組みきっかけとなっておりその機運醸成を更に進めるため、令和3年度より被表彰者の在籍校で表彰を行う形に変更しました。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>青少年育成委員会は、地域住民や学校関係者を中心に組織され、ボランティアで活動する任意団体ですが、これまで長年にわたり青少年の健全育成に資する取組を続けてきました。青少年の健全育成にはこうした地域の取組は不可欠であり、今後もこの取組が維持されるよう支援を継続します。</p> <p>すぎなみ舞祭は、青少年の健全育成が主目的ですが、認知度に比例して地域振興の側面も強くなっています。地域住民や関係団体で組織する実行委員会が主体となれるよう、必要な支援を行います。</p> <p>青少年善行表彰は、被表彰者の善行に光を当てるだけでなく、身近な人が表彰されることが他の青少年の刺激となり、善行の機運を高める効果があります。こうした善行の取組を地域に定着させ、青少年の健全育成に資するためにも、表彰制度は今後も継続していきます。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>それぞれ新型コロナウイルスの影響は続いています。青少年育成委員会の活動は、事業規模の縮小や中止が続いており、総事業数及び参加者数ともに目標値を下回っていますが、昨年度と比較するとどちらも増加しています。共催事業についても、すぎなみ舞祭の開催予定日直前まで緊急事態宣言が発出されていたために中止となり、スカウト連絡会との共催事業も予定どおりに開催できず、共催事業の参加者数は目標値の約50%となりました。青少年善行表彰については、推薦の対象となっていた青少年の活動機会の多くが提供されなかったことと、審査時期を早めたために令和3年度のみ対象期間が短くなっていることから、表彰件数が昨年度実績より少なくなり、目標値も下回っています。</p>
評価と課題	<p>各事業で新型コロナウイルスの影響は続いています。開催方法の変更や規模の見直し等を行うなど、これまでの経験を踏まえながら活動が再開されています。その結果、実施事業数も参加者数も増加傾向にあり、それぞれが盛況であったことは、青少年の需要に応える活動として評価できます。</p> <p>共催事業のすぎなみ舞祭は、集団での練習や準備が必要なことから中止となりましたが、昨年度は未実施だったスカウト連絡会との共催事業は、時期の見直しや内容を再考しながら8回開催できました。今後も新しい生活様式等を踏まえながらコロナ禍前の規模で事業が実施できるよう努めます。</p> <p>青少年善行表彰は、青少年が参加する事業の実施数と表彰数が比例するため、今後は増加していきます。表彰方法の見直しのように、更に善行の機運が高まる方法や取組の検討を続けます。</p>

令和 5年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>新型コロナウイルスの影響により様々な活動が抑制され、青少年の健全育成を目的に活動する団体に対する助成も、暫くは支出額が減少することが予測されます。また、青少年育成委員会補助金の様式を見直したことと、各事業の実施方法や規模の見直しにより、適正・適切な規模での事業開催が進むことで、全体の支出規模が増加することはないと考えます。今後は助成対象事業や共催事業において、青少年の健全育成という目的達成のために必要な支援を継続していきます。</p> <p>青少年善行表彰は、今後も各種の地域イベントや屋外での活動の抑制が続けば、表彰件数も低水準で推移すると思われますが、事業の再開が進むことで一気にコロナ禍前の規模まで回復する可能性もあります。また、コロナ禍前の表彰件数は増加傾向にありました。今後も善行を推薦いただく関係団体や地域住民への周知や広報を行いながら、一人でも多くの善行を表彰し、善行の機運醸成を図ることで、青少年の健全育成につながるよう事業を行っていきます。</p>	

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (1)

(00241)

事務事業名称	青少年の自立応援・社会参加事業			款	04	項	02	目	01	事業	006	整理番号	233	
現担当課名	児童青少年課	係名	青少年係	連絡先電話番号	4402			昨年度整理番号	248					
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実							予算事業区分	既定事業					
事業開始	昭和25年度													
令和 3年度担当課名	児童青少年課							事業評価区分	一般					

令和 3年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象	区内在住・在学・在勤の25歳未満の青少年	根拠法令等	(1) (2)	成人祝賀のつどい実施要綱
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	青少年が、社会を構成する主体として自覚を持った成人に成長するよう支援する。	活動指標	指標名 (1) 指標説明 指標名 (2)	成人祝賀のつどい出席者数 自立支援・社会参画事業実施回数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	○成人の日に成人祝賀のつどいを開催する。 区内在学の高校生を対象に、将来の夢や仕事に関する意識調査を実施する。	指標説明	成果指標	成人祝賀のつどい実施回数 + 高2アンケート実施協力校数 自立支援・社会参画事業参加人数
		指標説明	指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	成人祝賀のつどい参加者数 + 高2アンケート回答者数 将来の夢や目標を持っている、または持つ必要があると考える区内高校2年生の割合 区内高校2年生に対する将来の夢や仕事に関するアンケートの集計結果

指標、総事業費・コスト把握 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和元年度	令和 2年度		令和 3年度		令和 4年度	令和 3年度	令和 3年度
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)
活動指標 (1)	1 人	2,140	2,200	1,814	2,200	2,223	2,200	101.0	93.1
活動指標 (2)	2 回	18	21	20	22	20	3	90.9	
成果指標 (1)	3 人	6,552	7,000	6,157	7,000	6,756	2,200	96.5	
成果指標 (2)	4 %	88.4	90	87.2	90	90.5	0	100.6	
事業費	5 千円	7,984	15,639	13,641	16,440	15,304	16,405	特記事項	
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	活動指標 (2) 及び、成果指標 (1) (2) の令和4年度計画値が減となっているのは、対象となる高2アンケート事業を令和3年度で廃止したためです。	
(内) 委託費	7 千円	6,268	13,343	11,913	14,372	13,741	14,514		
職員数	8 人	1.26	1.00	1.32	1.60	1.65	1.60		
上記以外の職員	9 人	0.57	0.50	0.80	0.50	0.50	0.50		
人件費	10 千円	10,985	8,718	11,224	13,605	13,766	13,349		
上記以外の職員	11 千円	1,756	1,540	2,902	1,814	1,838	1,838		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	20,725	25,897	27,767	31,859	30,908	31,592		
単位当たりコスト ((12-6) ÷ 1)	13 円	9,685	11,771	15,307	14,481	13,904	14,360		
財源	受益者負担分	14 千円	0	0	0	0	0		
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	0	0		
	都からの補助金等	16 千円	0	0	0	0	0		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	0	0	0	0	0	0	
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	20,725	25,897	27,767	31,859	30,908	31,592		
受益者負担比率 (14 ÷ 12)	20 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

令和 4年度杉並区事務事業評価表（2）

令和 3年度 事業実施状況（D o）

整理番号 233

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	成人祝賀のつどいの実施運営業務委託		1	件
	成人祝賀のつどいの美術芸能委託	1	件	2,508
	成人祝賀のつどいの会場賃借料	1	回	1,324
	その他（高2アンケート実施に伴う消耗品の購入、郵送料等）			285

事業実績

成人祝賀のつどいは、成人の日に杉並公会堂を会場に対象者の地域ごと3回に分けて開催し、対象者の4割を超える2,223名が参加しました。
 高校2年生を対象としたアンケートは、将来の夢や仕事に関する内容で実施し、区内の高校19校のうち17校から協力を得られ、4,533名から回答を得ました。

令和 3年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情など）	<p>少子高齢化が一層進み、民法改正により成年年齢が引き下げられるなど、若者一人ひとりにかかる社会的責任や期待は大きく、若者への自立支援が必要とされる状況が続いています。そうした中で、「成人祝賀のつどい」に参加した成人からは、大人としての責任感や自覚が芽生えるきっかけとなったなどの意見が多く、社会参加のスタート地点となっています。</p> <p>高校2年生を対象としたアンケートでは、これまで多くの高校からご協力いただき、将来の夢や目標を中心に調査することで区の施策への参考としてきましたが、一方で、多忙などを理由にアンケートに参加できない学校もあるなど、実施方法等の見直しが必要でした。このため、より幅広い年齢を対象として5年ごとに実施している青少年実態調査と統合します。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>「成人祝賀のつどい」の参加率は、過去10年間40%～50%で推移しており、コロナ禍でも大きな差はなく、今後も大きな変動はないものと推測します。</p> <p>なお、成年年齢が引き下げられた令和4年度以降も引き続き20歳を対象とした式典を開催し、参加者に成人であることを再認識する場として、自覚と自立を促すと同時に期待と励ましを伝えることができるよう努めます。</p> <p>若者の自立支援や社会参加を促す取組は時代とともに変化や見直しが必要ですが、今後もその取組は不可欠であり、時代に即した改善や方法を検討しながら事業を推進していきます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>「成人祝賀のつどい」は、コロナ禍であっても式典の開催や参加を求める声が多く、コロナ対策の徹底とその周知等により、参加者に安心して参加できる環境を整えた結果、コロナ禍前の参加率を超えました。引き続き、参加者にとって魅力的で意義のある催しとなるよう、ニーズに即した形での開催に努めます。</p> <p>高校2年生アンケートは、区内19校のうち2校から協力が得られず、目標値を下回る結果となりましたが、得られた回答では、将来の夢や目標を「持っている」または「今は持っていないが持ちたい」と答えた割合が90%を超えており、目標値を超える結果となりました。アンケートの結果を参考にしながら、次代を担う若者が目標をより明確に定めていけるよう努めていきます。</p>
評価と課題	<p>「成人祝賀のつどい」は、新型コロナウイルス感染症の影響が残る中での開催となり、一部否定的な意見もありましたが、コロナ対策の徹底とその周知等により、参加者に安心して参加できる環境を整えた結果、参加者からは喜びや自覚が芽生えたとの声が聞かれました。民法改正により成年年齢が引き下げられ、令和4年度からは「二十歳のつどい」として開催しますが、参加者の対象年度に混乱が生じないよう十分に周知しながら、参加者に成人であることを再認識する意義のある場として参加してもらえよう努めます。</p> <p>高校2年生アンケートは、高校生の率直な意見を聞くことができ、一定の成果を得ていましたが、幅広い年齢を対象に5年毎の実施を予定している青少年実態調査と統合します。</p>

令和 5年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>「成人祝賀のつどい」は、行財政改革推進計画に基づき、引き続き配布物等での広告掲載による歳入確保を図ります。また、参加者の事前登録方法を見直して既存システムの利用を検討するなど、コロナ対策を追加しても運営業務委託の契約額が増加しないよう努めます。</p> <p>「高校2年生アンケート」は、令和3年度で廃止し、5年毎に実施予定の青少年実態調査と統合しますが、より効果的な実態調査が行えるよう、これまでの委託内容や実施方法を抜本的に見直します。このため実態調査の実施年度においては予算の増額が必要となります。</p>	

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (1)

(00270)

事務事業名称	学童クラブ事業			款	04	項	02	目	01	事業	034	整理番号	259
現担当課名	児童青少年課		係名	管理係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	274		
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実							予算事業区分	既定事業				
事業開始	昭和39年度	実行計画事業	目標	05	施策	24	計画事業	02					
令和 3年度担当課名	児童青少年課							事業評価区分	一般				

令和 3年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象	保護者が就労等で昼間留守家庭となる区内在住・在学の小学生	根拠法令等 (1) (2)	児童福祉法第6条の3第2項 杉並区児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	家庭、学校、地域等との連携の下、発達段階に応じた主体的な遊びや生活が可能となるよう、児童の自主性、社会性及び創造性の向上、基本的な生活習慣の確立等を図るなど、児童の健全育成支援を目的とする。	活動指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2)	学童クラブ数 受入可能枠 4月時点の受入可能枠
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	児童一人ひとりが尊重され、安心して安全に、楽しく過ごせる放課後等の集団生活の場を提供する。 児童の受入時間 平日 下校時から午後6時まで (延長利用は午後7時まで、学校休校日は午前8時から受入) 土曜日 午前8時30分から午後5時まで 休業日 日曜、休日、年末年始	指標説明 成果指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	入会児童数 4月時点の入会児童数 待機児童数 翌年4月時点の待機児童数

指標、総事業費・コスト把握 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和元年度	令和 2年度		令和 3年度		令和 4年度	令和 3年度	令和 3年度	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)	
活動指標 (1)	1 か所	47	45	45	48	48	50	100.0	95.0	
活動指標 (2)	2 人	4,930	5,316	5,316	5,557	5,557	5,975	100.0		
成果指標 (1)	3 人	4,605	5,163	4,851	5,178	4,983	5,432	96.2		
成果指標 (2)	4 人	242	0	233	0	242	0	0.0		
事業費	5 千円	594,776	856,378	840,341	1,065,026	1,012,265	1,271,167	特記事項		
(内)投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0			
(内)委託費	7 千円	561,735	816,321	808,021	1,028,045	978,245	1,235,311			
職員数	常勤職員数 (再任用含)	8 人	96.60	80.60	86.10	79.90	84.00	84.40		
	上記以外の職員	9 人	31.00	25.10	26.00	29.00	26.00	25.70		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	10 千円	825,279	688,323	714,133	663,572	683,902	690,621		
	上記以外の職員	11 千円	95,480	77,308	94,328	105,212	95,550	94,448		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	1,515,535	1,622,009	1,648,802	1,833,810	1,791,717	2,056,236			
単位当たりコスト ((12-6)÷1)	13 円	32,245,426	36,044,644	36,640,044	38,204,375	37,327,438	41,124,720			
財源	受益者負担分	14 千円	206,322	218,209	172,915	230,476	223,097	242,909		
	国からの補助金等	15 千円	193,548	202,998	228,588	231,821	226,806	234,687		
	都からの補助金等	16 千円	193,548	202,998	226,018	235,789	215,292	236,818		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	593,418	624,205	627,521	698,086	665,195	714,414		
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	922,117	997,804	1,021,281	1,135,724	1,126,522	1,341,822			
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	13.6	13.5	10.5	12.6	12.5	11.8			

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (2)

令和 3年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 259

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	学童クラブ運営業務委託	20	所	969,839
	民間学童クラブ運営費助成	2	所	22,400
	おやつ代助成	442	人	8,708
	その他 (事務費ほか)			11,318
事業実績	区立学童クラブ (直営28クラブ、委託20クラブ) の運営のほか、民間学童クラブへの運営費の補助や区立学童クラブを利用している就学援助受給世帯等へのおやつ代の助成を実施しました。 令和4年4月から新たに4学童クラブ (桃一、八成、桃三、井荻) の運営を委託するため、事業者の公募・選定や引継ぎ等の準備を進めました。			

令和 3年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情など)	共働き家庭の増加や核家族化の進展等による保育需要の高まりに連動し、学童クラブ需要も年々増加しています。入会児童数は、この10年間で約1.7倍となり、約2,300人増加しています。 【入会児童数】 平成24年4月：3,207人 令和2年4月：4,851人 令和3年4月：4,983人 令和4年4月：5,490人 【待機児童数】 平成24年4月：44人 令和2年4月：242人 令和3年4月：233人 令和4年4月：242人 「学年が上がると学童クラブに入れなくなることがある。希望する者は、必ず入会できるようにしてほしい」等の意見が寄せられています。
事業の今後 (3～5年) の予測と方向性	当面は保育需要に連動して、学童クラブ需要も増加していくと予測されるため、各学童クラブの状況等に応じた受入枠の拡大等を図る必要があります。 働きながら安心して子育てができる環境の充実を図るため、今後も、児童館再編 (学童クラブの学校内移設等) の取組を基本に受入枠の拡大を進めるとともに、学童クラブの運営の質の向上に向けた取組を強化していきます。
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	待機児童を解消するため、小学校内等に学童クラブを整備するとともに、既存学童クラブの育成室の拡張等を行うことにより、418名の受入枠の拡大を図りましたが、全体として242名の待機児童が発生しました。
評価と課題	増加する学童クラブ需要に対応するため、令和4年4月に向けて、7所の小学校内へ学童クラブの整備 (移転整備含む)、3所の既存学童クラブの拡張などに取り組み、418名の受入枠を拡大したことにより、当該学童クラブでは概ね待機児童の解消を図ることができました。しかし、学童クラブは児童の自力通所であることから、広域的な入会調整が難しく、局所的に待機児童が発生し、全体として待機児童の解消には至りませんでした。すべての地域において待機児童解消を果たせるよう、児童館再編の取組を急ぐ必要がありますが、学校内移設等を直ちに行えない地域もあり、他の手法についても検討する必要があります。

令和 5年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	拡充
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善) ・実施主体の見直し
予算の方向性の理由・内容	引き続き、学童クラブ需要の増加が見込まれ、受入児童数の変化に応じて事業費が増加します。また、医療的ケア児の受入や福祉サービス第三者評価の実施、学童クラブ入退室管理システムの導入による事業費が増加します。	

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (1)

(00271)

事務事業名称	児童健全育成事業			款 04	項 02	目 01	事業 035	整理番号	260
現担当課名	児童青少年課	係名	児童館運営係	事業係	連絡先電話番号	4402	昨年度整理番号	275	
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実					予算事業区分	既定事業		
事業開始	昭和41年度	実行計画事業	目標 05	施策 24	計画事業 03	主要事業 (区政経営報告書掲載事業)			
令和 3年度担当課名	児童青少年課					事業評価区分	一般		

令和 3年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象	18歳未満の児童及び保護者、児童の健全育成支援の活動を行う団体・個人等	根拠法令等 (1) (2)	児童福祉法第35条、同法第40条 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則等
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	児童青少年センター、児童館及び子ども・子育てプラザにおける事業の充実を図り、児童の自主性、社会性、創造性等を培い、その健やかな成長を支援する。	活動指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2)	センター及び児童館数 子ども・子育てプラザ数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	児童館の自由利用のほか、定例活動 (工作、調理等) や、特別行事 (スポーツ大会・遠足・講演会・祭り・キャンプ等) 等を実施する。 児童青少年センターの自由利用のほか、各種事業 (職員企画、中高校生企画、中高校生運営委員会企画事業等) を実施する。 子ども・子育てプラザでの子育てに関する各種講座や遊びのプログラムの実施、各種サービスの情報提供と利用相談を実施する。 放課後等居場所事業を実施する。	指標説明 成果指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	年間延べ利用者数 (センター、児童館及び放課後等居場所事業) 年間延べ利用者数 (子ども・子育てプラザ)

指標、総事業費・コスト把握 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和元年度	令和 2年度		令和 3年度		令和 4年度	令和 3年度	令和 3年度	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)	
活動指標 (1)	1 館	38	33	33	30	30	28	100.0	98.1	
活動指標 (2)	2 館	4	5	5	5	5	6	100.0		
成果指標 (1)	3 人	1,419,118	1,600,000	641,104	719,000	956,893	918,500	133.1		
成果指標 (2)	4 人	203,039	172,000	117,351	144,000	181,127	202,500	125.8		
事業費	5 千円	181,084	219,155	207,659	255,796	251,019	292,241	特記事項		
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0			
(内) 委託費	7 千円	73,693	162,644	161,452	216,285	215,332	249,783			
職員数	常勤職員数 (再任用含)	8 人	122.50	111.10	116.50	106.80	107.14	110.50		
	上記以外の職員	9 人	62.00	41.00	49.00	54.70	49.00	48.40		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	10 千円	1,019,425	897,673	933,080	856,712	839,757	877,936		
	上記以外の職員	11 千円	190,960	126,280	177,772	198,452	180,075	177,870		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	1,391,469	1,243,108	1,318,511	1,310,960	1,270,851	1,348,047			
単位当たりコスト ((12-6) ÷ 1)	13 円	36,617,605	37,669,939	39,954,879	43,698,667	42,361,700	48,144,536			
財源	受益者負担分	14 千円	0	0	0	0	0	0		
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	0	0	0		
	都からの補助金等	16 千円	14,786	29,664	30,708	26,200	37,891	31,248		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	14,786	29,664	30,708	26,200	37,891	31,248		
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	1,376,683	1,213,444	1,287,803	1,284,760	1,232,960	1,316,799			
受益者負担比率 (14 ÷ 12)	20 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

令和 4年度杉並区事務事業評価表（2）

令和 3年度 事業実施状況（D o）

整理番号 260

	内 容	規模	単位	事業費（千円）
主な取組	児童青少年センター事業	1	館	1,818
	児童館、子ども・子育てプラザ事業	34	館	8,701
	児童館中・高生事業	34	館	202
	放課後等居場所事業	12	校	217,407
	その他（管理運営費等）			22,891
事業実績	<p>引き続き、児童青少年センター及び児童館における児童健全育成事業を実施するとともに、児童館再編による子ども・子育てプラザの運営及び放課後等居場所事業を実施しました。</p> <p>また、新たに桃井第三小学校及び井荻小学校での放課後等居場所事業の実施準備を行い、令和4年4月からの放課後等居場所事業の実施校数は、区立小学校40校中14校となりました。</p>			

令和 3年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情など）	<p>近年、児童館では、乳幼児親子と小学生の学童クラブ利用が大幅に伸びる一方、中・高校生の利用は減少傾向にあるなど、利用状況が変化してきています。限られたスペースの中で、幅広い年齢層のニーズを満たす事業・サービスを展開していくことが難しくなってきたことから、児童館再編の取組を進めています。</p> <p>児童館再編の取組に対しては、「子ども・子育てプラザは乳幼児を連れて気軽にゆっくり過ごすことができる」、「放課後等居場所事業は、帰宅せずにそのまま放課後を過ごせるので子どもが移動するときの心配がなくなり、安心して遊びに出せる」などの声が寄せられる一方、「様々な年齢層の子どもや多世代が交流できる機会が増えるとよい」などの声が寄せられています。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>区内7地域に2所ずつ（計14所）整備する予定の子ども・子育てプラザについて、未整備地域や2所目の整備を計画的に進めていきます。小学生の放課後等の居場所の充実・発展に向け、小学校内における放課後等居場所事業の実施校数の拡大を図るとともに、実施時間の拡充を試行的に実施するなど、事業の充実に向けた取組を進めます。また、令和6年度に開設予定の杉並第八小学校跡地を活用したコミュニティふらっとと図書館の複合施設において、中・高校生が気軽に集うことができる新たな居場所づくりの準備を進めます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止及び感染予防のため、基本的な感染症対策を徹底するとともに、一部利用制限をかけるなど、昨年度に引き続き「新しい運営様式」による運営を継続しましたが、年間延べ利用者数は、計画（目標値）を超える結果となりました。</p>
評価と課題	<p>子どもの居場所の充実を図るため推進している児童館再編の取組は、現状では3分の1程度の地域における実施にとどまっています。</p> <p>未実施の地域においては、従前の児童館の取組を継続しつつ、育成支援の充実に努めていますが、可能な限り早期に区内全域に児童館再編の取組を広げていく必要があります。</p> <p>区立施設再編整備計画の中で、子ども・子育てプラザの整備地をどのように確保していくか等が大きな課題となります。</p>

令和 5年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	拡充
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>区立施設再編整備計画に基づき、放課後等居場所事業を新たに1小学校（高井戸第三小学校）で実施します。また、機能移転後の下高井戸児童館施設を転用し、区内7所目となる（仮称）子ども・子育てプラザ下高井戸を開設します。</p> <p>放課後等居場所事業は民間委託のため、実施校数の増に伴い委託料が増加します。また、放課後等居場所事業の充実を図るための取組（試行的実施）に係る経費が増加します。</p>	

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (1)

(00273)

事務事業名称	子ども国内交流事業			款	04	項	02	目	01	事業	037	整理番号	262
現担当課名	児童青少年課		係名	事業係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	277		
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実							予算事業区分	既定事業				
事業開始	平成 2年度												
令和 3年度担当課名	児童青少年課							事業評価区分	一般				

令和 3年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象	区内在住の小学生 (4 ~ 6年生)	根拠法令等	(1) 杉並区立児童青少年センター及び児童館事業運営要綱 (2) 杉並区都市交流実施要綱
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	友好都市の子どもとの交流を通して、児童の健全育成を図る。	活動指標	交流自治体数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	名寄市との交流会を開催する。 東吾妻町との交流会を開催する。	指標名 (1)	
		指標説明	
		指標名 (2)	
		指標説明	
		成果指標	参加者数
		指標名 (1)	
		指標説明	
		指標名 (2)	
		指標説明	

指標、総事業費・コスト把握 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和元年度	令和 2年度		令和 3年度		令和 4年度	令和 3年度	令和 3年度
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)
活動指標 (1)	1 自治体	2	2	0	2	0	2	0.0	
活動指標 (2)	2								
成果指標 (1)	3 人	50	50	0	50	0	50	0.0	
成果指標 (2)	4								
事業費	5 千円	5,971	0	0	6,643	0	6,362	特記事項 新型コロナウイルス感染症の感染予防及び感染拡大防止のため、子ども国内交流事業を中止しました。	
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0		
(内) 委託費	7 千円	1,934	0	0	1,996	0	1,996		
職員数	8 人	1.10	1.00	0.10	1.00	0.10	1.10		
上記以外の職員	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
人件費	10 千円	9,590	8,718	850	8,503	834	9,177		
上記以外の職員	11 千円	0	0	0	0	0	0		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	15,561	8,718	850	15,146	834	15,539		
単位当たりコスト ((12-6) ÷ 1)	13 円	7,780,500	4,359,000	0	7,573,000	0	7,769,500		
財源	受益者負担分	14 千円	0	0	0	0	0		
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	0	0		
	都からの補助金等	16 千円	0	0	0	0	0		
	その他の補助金等	17 千円	2,684	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	2,684	0	0	0	0		
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	12,877	8,718	850	15,146	834	15,539		
受益者負担比率 (14 ÷ 12)	20 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

令和 4年度杉並区事務事業評価表（2）

令和 3年度 事業実施状況（D o）

整理番号 262

	内 容	規模	単位	事業費（千円）
主な取組	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、開催中止			0
	その他（ ）			
事業実績	新型コロナウイルス感染症の感染予防及び感染拡大防止のため、子ども国内交流事業を中止しました。			

令和 3年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情など）	当初は、参加費（交通実費等）を徴収して実施していましたが、より参加しやすい環境を整えるため、平成24年度からは次世代育成基金活用事業として、参加費を徴収せずに実施しています。また、多くの児童の参加の機会を保障するため、一度参加した児童は、再び参加できないこととしています。 参加児童からは「貴重な体験ができた」、「友人が増えた」、「東京との違いを感じることができた」等の感想がありました。保護者からは、「短期間にも関わらず子どもの成長が感じられた」、「このような体験機会を増やしてほしい」等の意見が寄せられています。
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	杉並区と交流自治体の子どもたちが、相互の地域を訪れ、さまざまな体験や交流を行う活動として、大変貴重な機会の一つとなっている事業であり、今後も交流自治体と連携し、本事業を継続していきます。 しかしながら、新型コロナウイルス感染症の収束時期が見通せないため、今後の感染状況等を注視するとともに、交流自治体と協議しながら、実施の可否を決定していく必要があります。
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	令和3年度は、新型コロナウイルス感染症の流行に伴い、交流自治体と協議し、感染拡大防止及び感染予防の観点から事業を中止しました。
評価と課題	本事業は、杉並区と交流自治体の子どもたちが、一度の交流会で両方の自治体に訪問する形で実施しており、子どもたちは、子ども同士の交流だけでなく、お互いの文化や自然等にも直接触れることができ、将来にわたる友好関係の礎になっています。 新型コロナウイルス感染症の影響により、2年連続で中止しており、今般の新型コロナウイルス感染症のような通常の訪問が懸念される状況下での交流のあり方を検討する必要があります。

令和 5年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	引き続き、子どもたちの体験・交流を行う貴重な機会の一つとなるよう、次世代育成基金活用事業として本事業を継続していきます。今後の新型コロナウイルス感染症の状況によっては、中止又は実施方法等の見直しを検討する必要があります。	

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (1)

(00282)

事務事業名称	次世代育成基金の運営			款 04	項 02	目 01	事業 050	整理番号	267
現担当課名	児童青少年課	係名	青少年係	連絡先電話番号			4402	昨年度整理番号	282
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実					予算事業区分	既定事業		
事業開始	平成24年度	実行計画事業	目標 05	施策 24	計画事業 01				
令和 3年度担当課名	児童青少年課					事業評価区分	一般		

令和 3年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象	区内の小・中・高校生、支援する大人	根拠法令等	(1) 杉並区次世代育成基金条例 (2) 杉並区次世代育成基金推進会議設置要綱
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか)	子どもたちが、国内外の文化・芸術・自然に触れ、またはスポーツ交流に参加する機会を創出するため、基金を運営する。 基金への理解・賛同を得られるよう周知し、募金の呼びかけを図る。	活動指標	基金活用事業件数
		指標名 (1)	区主催と民間提案事業助成による基金活用事業件数
		指標説明	基金活用事業参加者募集 (定員) 数
		指標名 (2)	
		指標説明	
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段)	区内の小・中・高校生を対象とした国内外の体験交流事業等の実施に対し、子どもの参加に係る経費の2分の1を基金から充当する。 基金の趣旨を広く区民に周知し、寄附を募る。 各種イベント会場等で募金活動を実施する。	成果指標	基金活用事業参加児童・生徒数
		指標名 (1)	派遣型事業は参加実人数、講座型事業は参加延べ人数
		指標説明	寄附者件数
		指標名 (2)	
		指標説明	

指標、総事業費・コスト把握 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和元年度	令和 2年度		令和 3年度		令和 4年度	令和 3年度	令和 3年度
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)
活動指標 (1)	1 件	13	4	4	11	7	12	63.6	73.3
活動指標 (2)	2 人	742	205	179	439	335	758	76.3	
成果指標 (1)	3 人	690	205	162	439	272	758	62.0	
成果指標 (2)	4 件	1,733	1,500	321	1,800	1,667	1,800	92.6	
事業費	5 千円	25,955	12,063	10,378	31,249	22,901	21,535	特記事項	
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0	区が主催する基金を活用した事業は、新型コロナウイルス感染症の影響により、8事業のうち4事業が中止となりました。	
(内) 委託費	7 千円	215	166	137	163	109	1,175		
職員数	8 人	0.33	1.00	0.82	1.40	0.88	1.00		
上記以外の職員	9 人	0.76	0.40	1.00	1.00	1.10	1.00		
人件費	10 千円	2,877	8,718	6,972	11,904	7,342	8,343		
上記以外の職員	11 千円	2,341	1,232	3,628	3,628	4,043	3,675		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	31,173	22,013	20,978	46,781	34,286	33,553		
単位当たりコスト ((12-6)÷1)	13 円	2,397,923	5,503,250	5,244,500	4,252,818	4,898,000	2,796,083		
財源	受益者負担分	14 千円	0	0	0	0	0		
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	0	0		
	都からの補助金等	16 千円	0	0	0	0	0		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	0	0	0	0	0	0	
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	31,173	22,013	20,978	46,781	34,286	33,553		
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

令和 4年度杉並区事務事業評価表（2）

令和 3年度 事業実施状況（D o）

整理番号 267

	内 容	規模	単位	事業費（千円）
主な取組	基金の積立	1	回	19,210
	基金活用事業助成金の交付	3	件	2,539
	次世代育成基金10周年記念誌の作成	7,000	部	499
	「杉並区次世代育成基金チラシ」等の作成	17,000	部	152
	その他（啓発用消耗品の購入 ほか）			501
事業実績	<p>新型コロナウイルスに伴う緊急事態宣言の発出などを理由に、基金を活用した区主催事業は予定していた8事業のうち4事業の実施に留まりましたが、220名の児童・生徒が参加しました。また、民間提案事業に対する基金を活用した助成制度では3事業を採択し、52名の児童・生徒が参加しました。</p> <p>令和4年度には基金創設10周年を迎えることから新たに記念誌を作成して配布するなど、制度趣旨の理解を求め、寄附者の裾野を広げることを目的に周知を行った結果、1,667件 / 18,277,556円のご寄附をいただきました。</p>			

令和 3年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情など）	<p>【平成24年度】基金開設 【平成27年度】民間提案事業に対する基金活用事業助成を開始</p> <p>【寄附件数 / 寄附額】 H24～R3年度までの総数：8,976件 / 152,238,016円</p> <p>【R1】1,733件 / 18,308,775円 【R2】321件 / 8,330,158円 【R3】1,667件 / 18,277,556円</p> <p>【助成事業参加者数 / 延べ事業数（H27～R3）】2,299人 / 23事業</p> <p>基金活用事業の参加者からは「違う学校の友達ができ良かった」「普段の生活や学校では体験できないことができた」などの肯定的な意見と、寄附者への感謝の言葉が届いています。</p> <p>また、寄附者からは「将来まで記憶に残るような体験をしてほしい」「これからの世代に少しでも還元できることが嬉しい」などの声が寄せられています。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>新型コロナウイルスの影響により、コロナ禍前の規模や方法での事業実施が難しい状況は続くことが予想されますが、事業の実施件数は回復の兆しが見られます。また、令和4年度には基金創設10周年の記念展の開催を予定しており、次世代育成基金の認知度が向上することで、寄附者だけではなく基金活用事業に参加を希望する児童・生徒の数も増加することが見込まれます。</p> <p>区広報紙やホームページのほか、区主催のイベント会場や区内の民間企業の協力を得ながら、次世代育成基金のPRを続けることで制度趣旨の理解が進み、過去の事業参加者が寄附者となるなど、寄附者の裾野が広がりながら、区内の寄附文化の醸成が進みます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>新型コロナウイルスの影響により中止した区主催事業があるほか、安定した事業実施に不安を抱き基金活用事業助成への申請を見送る団体が出るなど、活動指標としている基金活用事業数が目標値を下回ったため、成果指標としている基金活用事業に参加する児童・生徒数も目標値を下回りました。</p> <p>しかし、実施した事業のほとんどで申込期間の早い段階で定員を超える参加申込があるなど、基金活用事業の認知度は高く安定しています。</p> <p>寄附者数についても、コロナの影響から区が行う募金活動の機会が減ったことにより、目標値は下回る結果となりましたが、前年度比では増となっています。</p>
評価と課題	<p>基金創設から10年が経過し、基金への寄附件数のほか、コロナ禍であっても基金活用事業への参加希望者も一定の水準で維持されていることから、区内における基金の認知度は高まっているものと評価できます。</p> <p>一方で、基金を活用し、子どもたちに充実した交流や体験の機会を継続的に提供するには、一定額の基金を維持する必要があります。そのためには、より一層多くの方に区独自の制度である本基金の趣旨をご理解いただき、未永くご支援をいただける仕組みを構築する必要があります。今後も様々な場面や手段でPRを行いながら寄附者の裾野を広げ、これまで以上に区内の寄附文化を醸成できるよう、寄附勧奨の取組を継続していきます。</p>

令和 5年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し（改善）
予算の方向性の理由・内容	<p>基金活用事業の実施時や全庁的に募金活動の機会を募るなど、募金活動の回数を増加させるほか、より効率的・効果的な周知方法を検討しながら寄附勧奨の取組に努めることとし、事業コストについては現状維持を見込んでいます。</p>	

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (1)

(00686)

事務事業名称	子どもプレーパーク事業			款	04	項	02	目	01	事業	063	整理番号	274
現担当課名	児童青少年課		係名	管理係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	290		
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実							予算事業区分	既定事業				
事業開始	平成27年度												
令和 3年度担当課名	児童青少年課							事業評価区分	一般				

令和 3年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象 児童	根拠法令等 (1) (2)	杉並区子どもプレーパーク事業実施要綱
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 自由な遊びの場を提供し、火おこしや水遊び、木登りなどの体験を通じて、子どもたちの自主性や社会性、創造力を育み、地域社会の中で健やかな成長を推進する。	活動指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2)	プレーパーク実施回数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段) 自由な遊びの場を提供する。 火おこし、水遊び、木登り、工作等の子どもの活動・遊びを支援する。 地域住民の交流活動等の場を提供する。	指標説明 成果指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	プレーパーク参加者数

指標、総事業費・コスト把握 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和元年度	令和 2年度		令和 3年度		令和 4年度	令和 3年度	令和 3年度
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)
活動指標 (1)	1 回	63	65	53	71	61	72	85.9	100.0
活動指標 (2)	2								
成果指標 (1)	3 人	10,499	11,000	12,119	12,000	16,525	14,000	137.7	
成果指標 (2)	4								
事業費	5 千円	5,879	6,073	6,070	6,056	6,056	6,104	特記事項	
(内) 投資的経費等	6 千円	0	0	0	0	0	0		
(内) 委託費	7 千円	5,879	6,043	6,043	6,056	6,056	6,104		
職員数	常勤職員数 (再任用含)	8 人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	
	上記以外の職員	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	
人件費	常勤職員分 (再任用含)	10 千円	1,744	1,744	1,701	1,701	1,669	1,669	
	上記以外の職員	11 千円	0	0	0	0	0	0	
総事業費 (5+10+11)	12 千円	7,623	7,817	7,771	7,757	7,725	7,773		
単位当たりコスト ((12-6)÷1)	13 円	121,000	120,262	146,623	109,254	126,639	107,958		
財源	受益者負担分	14 千円	0	0	0	0	0	0	
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	0	0	0	
	都からの補助金等	16 千円	2,940	0	3,021	3,027	3,028	3,830	
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0	
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	2,940	0	3,021	3,027	3,028	3,830	
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	4,683	7,817	4,750	4,730	4,697	3,943		
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (2)

令和 3年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 274

	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
主な取組	子どもプレーパーク事業委託費の支出	1	団体	6,056
	その他 ()			
事業実績	<p>平成30年度から委託事業として実施し、区立公園を会場としたプレーパーク「杉並冒険遊び場」を開催 (柏の宮公園30回、6,973人参加、井草森公園26回、8,402人参加、その他の公園5回、1,150人参加) しました。天候の影響で中止となる回もありましたが、前年度と比較し、参加者は延べ4,406人増えました。</p>			

令和 3年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情など)	<p>区とNPO法人との協働提案事業として平成27年7月から事業を開始し、平成30年度からは区の委託事業として継続しています。令和3年度までに、延べ389回、73,280人の参加者がありました。</p> <p>【実施回数及び参加者】 令和元年度：63回、10,499人 令和2年度：53回、12,119人 令和3年度：61回、16,525人 参加した児童の関係者からは「普段の公園の利用の中では得られない貴重な体験の場になった」、「実施会場や開催日を増やして欲しい」といった意見が寄せられています。</p>
事業の今後 (3~5年) の予測と方向性	<p>参加人数や実施回数は天候等の要因により変動はありますが、子どもたちの健全な育成に一定の効果が期待されることから、今後も継続して実施していきます。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>令和3年度も新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、屋内等での実施が困難だったので、天候に恵まれない回については、事業を中止にせざるを得ない状況が多々ありました。しかし、1回あたりの実施に対する参加人数が多かったため、年間の参加者数は増加しました。</p>
評価と課題	<p>子どもを屋外で安全に遊ばせることの区民ニーズは高いものの、天候に左右されるため、安定して事業を開催するための工夫が今後も必要です。特に新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点から、より安全な場所や遊び方の工夫が求められています。</p>

令和 5年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	現状維持
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善)
予算の方向性の理由・内容	<p>引き続き利用者の満足が得られるよう、実施場所や回数を見直すほか、新型コロナウイルス感染症対策に留意し、より安全な事業実施に向けて工夫していきます。</p>	

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (1)

(00305)

事務事業名称	学童クラブの整備			款	04	項	02	目	03	事業	021	整理番号	293
現担当課名	児童青少年課		係名	管理係			連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	310		
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実							予算事業区分	投資事業				
事業開始	平成24年度	実行計画事業	目標	05	施策	24	計画事業	02	主要事業 (区政経営報告書掲載事業)				
令和 3年度担当課名	児童青少年課							事業評価区分	一般				

令和 3年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象 施設管理	根拠法令等 (1) (2)	児童福祉法第6条の3第2項 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 学童クラブの入会需要の増加に対応するため、小学校の余裕教室の利用や、児童館の一部諸室を育成室等へ転用する等の取組により、学童クラブ受入枠拡大を図る。	活動指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2)	改修実施児童館 (クラブ) 数
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段) 小学校の余裕教室や、児童館の一部諸室を育成室等へ転用する改修等を行う。	指標説明 成果指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	児童館 (クラブ) 改修等による受入枠の拡大数

指標、総事業費・コスト把握 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和元年度	令和 2年度		令和 3年度		令和 4年度	令和 3年度	令和 3年度	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)	
活動指標 (1)	1 所	6	4	4	5	5	1	100.0	97.9	
活動指標 (2)	2									
成果指標 (1)	3 人	306	241	241	274	274	73	100.0		
成果指標 (2)	4									
事業費	5 千円	39,731	110,806	104,136	350,837	343,472	63,488	特記事項		
(内) 投資的経費等	6 千円	39,731	104,055	97,814	327,822	336,428	61,469			
(内) 委託費	7 千円	34,922	106,106	99,669	343,392	336,470	61,181			
職員数	常勤職員数 (再任用含)	8 人	0.50	0.40	0.60	0.30	0.30	0.30		
	上記以外の職員	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	10 千円	4,359	3,487	5,102	2,551	2,503	2,503		
	上記以外の職員	11 千円	0	0	0	0	0	0		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	44,090	114,293	109,238	353,388	345,975	65,991			
単位当たりコスト (12÷1)	13 円	7,348,333	28,573,250	27,309,500	70,677,600	69,195,000	65,991,000			
財源	受益者負担分	14 千円	0	0	0	0	0	0		
	国からの補助金等	15 千円	0	12,000	12,000	49,536	88,424	31,527		
	都からの補助金等	16 千円	0	18,000	18,000	55,536	47,650	11,822		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	0	30,000	30,000	105,072	136,074	43,349		
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	44,090	84,293	79,238	248,316	209,901	22,642			
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (2)

令和 3年度 事業実施状況 (D o)

整理番号 293

主な取組	内 容	規模	単位	事業費 (千円)
	学童クラブ受入枠拡大のための建設工事 (桃一、和泉学園 (校外))	2	所	196,185
学童クラブ受入枠拡大のための改修工事 (八成、桃三、井荻)	3	所	126,134	
初度消耗品、備品等の購入	5	所	7,003	
その他 (備品搬出等)			14,150	

事業実績

西荻北学童クラブの桃井第三小学校への移転、善福寺学童クラブの井荻小学校近接地への移転を行い、同時に受入枠の拡大を図りました。また、桃井学童クラブ及び井草学童クラブの第二学童クラブをそれぞれ小学校内に整備するとともに、和泉学園学童クラブの校外育成室を整備したほか、既存学童クラブの育成室の拡張を行うことなどにより、令和4年度からの児童の受入枠の拡大を図りました。

令和 3年度 評価と課題 (C h e c k)

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見 (期待・要望・苦情など)	<p>女性の社会進出による共働き家庭の増加や核家族化の進展等による保育需要の高まりに連動し、学童クラブ需要も年々増加しています。</p> <p>区の学童クラブにおいては、小学校内での実施を基本とし、学校改築に合わせた整備や余裕教室の活用などにより、児童の安全と今後の需要に応じた育成環境を確保していくこととしました。それまでの間、増加する学童クラブ需要に対応するため、児童館施設の改修等により受入枠を拡大していくこととしています。</p>
事業の今後 (3 ~ 5 年) の予測と方向性	<p>当面は保育需要に連動して、学童クラブ需要も増加していくと予測されるため、各学童クラブの状況等に応じた受入枠の拡大等を図る必要があります。</p>
計画 (目標値) に対する実績 (指標の分析等)	<p>計画どおり5学童クラブの整備を行い、令和3年度の目標を達成しました。</p>
評価と課題	<p>受入枠を拡大することができた学童クラブでは、令和3年4月時点で発生していた待機児童をほぼ解消することができました。</p>

令和 5年度の方針 (A c t i o n)

予算の方向性 (見直しの視点)	I 事業コストの方向性	拡充
	II 事業の改善の方向性	手段・方法の見直し (改善) ・実施主体の見直し
予算の方向性の理由・内容	<p>令和4年度に予定している (仮称) 宮前中学童クラブ (宮前北第二学童クラブとして宮前中学校内に整備) の整備を進めるとともに、今後も各学童クラブの実情に応じた待機児童対策を進めていきます。</p>	

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (1)

(00786)

事務事業名称	富士見丘小学校学童クラブの整備				款	04	項	02	目	03	事業	023	整理番号	294	
現担当課名	児童青少年課		係名	管理係		連絡先電話番号	4402		昨年度整理番号	311					
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実								予算事業区分	投資事業					
事業開始	令和元年度	実行計画事業	目標	05	施策	24	計画事業	02							
令和 3年度担当課名	児童青少年課								事業評価区分	一般					

令和 3年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象 施設管理	根拠法令等 (1) (2)	児童福祉法第6条の3第2項 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 学童クラブの入会需要の増加等に対応するため、学校改築に合わせた整備や余裕教室、敷地の一部等を活用する等の取組により、学童クラブ受入枠拡大と育成環境の充実を図る。	活動指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	学童クラブ移転整備
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段) 富士見丘小学校の移転改築に合わせて、同小学校内に高井戸西学童クラブを移転整備する (令和6年4月開設予定)。	成果指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	

指標、総事業費・コスト把握 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和元年度	令和 2年度		令和 3年度		令和 4年度	令和 3年度	令和 3年度	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)	
活動指標 (1)	1	1	1	1	1	1	1	100.0	95.7	
活動指標 (2)	2									
成果指標 (1)	3									
成果指標 (2)	4									
事業費	5 千円	3,335	5,048	5,047	48,040	45,955	34,830	特記事項		
(内) 投資的経費等	6 千円	3,335	5,048	5,047	48,040	45,955	34,830			
(内) 委託費	7 千円	3,335	5,048	5,047	48,040	45,955	34,830			
職員数	常勤職員数 (再任用含)	8 人	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20	0.20		
	上記以外の職員	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	10 千円	1,744	1,744	1,701	1,701	1,669	1,669		
	上記以外の職員	11 千円	0	0	0	0	0	0		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	5,079	6,792	6,748	49,741	47,624	36,499			
単位当たりコスト (12÷1)	13 円	5,079,000	6,792,000	6,748,000	49,741,000	47,624,000	36,499,000			
財源	受益者負担分	14 千円	0	0	0	0	0	0		
	国からの補助金等	15 千円	0	0	0	19,760	19,760	13,848		
	都からの補助金等	16 千円	0	0	0	6,174	6,174	4,326		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	0	0	0	25,934	25,934	18,174		
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	5,079	6,792	6,748	23,807	21,690	18,325			
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

令和 4年度杉並区事務事業評価表（2）

令和 3年度 事業実施状況（D o）

整理番号 294

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	建設工事			
	工事管理費			1,280
	その他（ ）			
事業実績	平成30年度に策定した改築基本計画に基づき令和2年度に実施設計を行い、令和3年度から工事に着手しました。			

令和 3年度 評価と課題（C h e c k）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情など）	女性の社会進出による共働き家庭の増加や核家族化の進展等による保育需要の高まりに連動し、学童クラブ需要も年々増加しています。 区の学童クラブにおいては、小学校内での実施を基本としており、富士見丘小学校の改築に合わせ、富士見丘小学校改築検討懇談会等で保護者や地域の方々からいただいた様々なご意見を踏まえ、学校内に育成室を整備していくこととしています。
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	令和3年度から工事に着手し、令和6年4月に（仮称）富士見丘学童クラブを開設する予定です。
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	計画どおり、建設工事に着手しました。
評価と課題	計画どおり、建設工事に着手しました。令和4年度も引き続き、令和6年4月の開設に向け建設工事を実施します。

令和 5年度の方針（A c t i o n）

予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	現状維持
	II 事業の改善の方向性	現状維持
予算の方向性の理由・内容	令和6年4月の開設に向け、引き続き建設工事を実施します。	

令和 4年度杉並区事務事業評価表 (1)

(00750)

事務事業名称	阿佐谷児童館の移転整備			款	04	項	02	目	03	事業	031	整理番号	295
現担当課名	児童青少年課		係名	管理係			連絡先電話番号	4401		昨年度整理番号	312		
上位施策No・施策名	24 子ども・青少年の育成支援の充実							予算事業区分	投資事業				
事業開始	平成29年度							主要事業 (区政経営報告書掲載事業)					
令和 3年度担当課名	児童青少年課						事業評価区分	一般					

令和 3年度 事務事業の概要 (P l a n)

対象 施設管理	根拠法令等 (1) (2)	児童福祉法第35条 杉並区立児童青少年センター及び児童館条例、同施行規則
事業の目的・目標 (対象をどのような状態にしたいのか) 杉並第一小学校等施設整備等方針に基づき、阿佐谷児童館を移転し、阿佐谷地域区民センターと統合を図り、複合施設とする。	活動指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2)	基本・実施設計 建設工事
活動内容 (事務事業の内容、やり方、手段) 阿佐谷児童館を移転し、阿佐谷地域区民センターと統合を図り、複合施設として整備する。	指標説明 成果指標 指標名 (1) 指標説明 指標名 (2) 指標説明	

指標、総事業費・コスト把握 (P l a n ・ D o)

区分	単位	令和元年度	令和 2年度		令和 3年度		令和 4年度	令和 3年度	令和 3年度	
		実績	計画	実績	計画 (目標値)	実績	計画	対計画比 (%)	予算執行率 (%)	
活動指標 (1)	1 式	1	0	0	0	0	0	0.0	97.4	
活動指標 (2)	2 式	1	1	1	1	1	0	100.0		
成果指標 (1)	3									
成果指標 (2)	4									
事業費	5 千円	112,088	44,051	44,051	278,460	271,216	32,629	特記事項		
(内) 投資的経費等	6 千円	99,915	43,575	43,575	265,119	259,949	30,980			
(内) 委託費	7 千円	12,173	476	476	7,321	7,000	0			
職員数	常勤職員数 (再任用含)	8 人	0.10	0.05	0.05	0.50	0.10	0.10		
	上記以外の職員	9 人	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00	0.00		
人件費	常勤職員分 (再任用含)	10 千円	872	436	425	4,252	834	834		
	上記以外の職員	11 千円	0	0	0	0	0	0		
総事業費 (5+10+11)	12 千円	112,960	44,487	44,476	282,712	272,050	33,463			
単位当たりコスト (12÷1)	13 円	112,960,000	0	0	0	0	0			
財源	受益者負担分	14 千円	0	0	0	0	0	0		
	国からの補助金等	15 千円	11,873	9,421	2,330	0	0	0		
	都からの補助金等	16 千円	13,039	9,421	2,330	0	0	0		
	その他の補助金等	17 千円	0	0	0	0	0	0		
	特定財源計 (14+15+16+17)	18 千円	24,912	18,842	4,660	0	0	0		
差引：一般財源 (12-18)	19 千円	88,048	25,645	39,816	282,712	272,050	33,463			
受益者負担比率 (14÷12)	20 %	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0			

令和 4年度杉並区事務事業評価表（ 2 ）

令和 3年度 事業実施状況（ D o ）

整理番号 295

主な取組	内 容	規模	単位	事業費（千円）
	建設工事			
工事監理				4,200
初度調弁				3,467
改修事務費				801
	その他（解体設計、解体工事）			20,599
事業実績	<p>阿佐谷児童館を移転し、阿佐谷地域区民センターとの統合を図り、複合施設として整備するための建設工事を行い、阿佐谷学童クラブの受入枠を47人拡大しました。 また、阿佐谷児童館移転後の施設を解体するため、解体設計を行い、解体工事に着手しました。</p>			

令和 3年度 評価と課題（ C h e c k ）

事業開始当初から現在までの環境の変化と事業に対する意見（期待・要望・苦情など）	<p>杉並第一小学校の近隣病院への移転・建替え計画を受けて、平成29年度に杉並第一小学校等施設整備の方針を策定しました。 建設工事に際して騒音や振動、安全確保に関する要望等がありました。</p>
事業の今後（3～5年）の予測と方向性	<p>令和4年4月からの開設に向けて準備を進めます。</p>
計画（目標値）に対する実績（指標の分析等）	<p>計画どおり、令和4年2月18日に建設工事が完了し、同年3月1日に施設の引き渡しがありましたので、4月からの開設に向けて準備を進めました。</p>
評価と課題	<p>工期が令和4年2月18日に延期になりましたが、その後は特に問題もなく建設工事が行われ、予定どおり施設が完成しました。阿佐谷児童館は予定どおり令和4年4月から運営を開始します。</p>

令和 5年度の方針（ A c t i o n ）

予算の方向性（見直しの視点）	I 事業コストの方向性	縮小
	II 事業の改善の方向性	対象外
予算の方向性の理由・内容	<p>令和4年2月18日に建設工事が完了し、同年3月1日に施設の引き渡しがありました。</p>	